短信

エルサルバドルの大統領選挙

田中　高
(四日市大学講師)

3月19日，エルサルバドルでは予定どおり，大統領選挙が実施され，国民共和同盟(ARENA)のクリスティアニ候補が当選した。選挙管理委員会の発表では，投票総数は100万3152票で，投票率は54.6%。このうち有効投票数は93万9078票。クリスティアニは50万5370票を獲得し，得票率53.82%。次点のキリスト教民主党（PDC）のチャベス候補は33万8369票で得票率36.03%。3位の国民和解党（PCN）のモラン候補は3万8218票で同4.07%。注目を浴びた左派ゲリラ組織の大物である，民主連合（CD）のウンゴ候補は3万5642票で，得票率は3.8%に止まった。都市部では7～11%の得票率があったものの，農村部では1%に達するのがやっとであった。

今回の大統領選挙では，クリスティアニ候補が一貫してリードし，PDCのチャベス候補は守勢に回っていた。それでもクリスティアニ候補が第1回投票で過半数を超えるという予想はまれで，上位2名の決戦投票に持ち込まれる，というのが大方の見方であった。ARENA＝クリスティアニの圧勝である。

投票日を狙って左派ゲリラ（FMLN）は大攻勢をかけ，全土の90%が停電，交通妨害のため95%の車輌がストップした。このような異常事態下の選挙で，大多数の国民は対ゲリラ戦強硬策を打ち出しているARENAに投票したのである。昨年10月に筆者がクリスティアニ氏にインタヴューした際には「国軍の前線指揮官のなかには朝9時から夕方5時勤務の者がおり，とてもこれでゲリラを撃破することは不可能である」と語っていたことを思い出す。

エルサルバドル国民がクリスティアニに賭けたもうひとつの理由は，経済回復である。ドゥアルテ政権下で，インフレ，失業，貧困層の割合は，いずれも大きく悪化した。もともとオリガルキーが主体となって誕生したARENAに経済活性化の望みを託したと言えよう。

ARENAの勝利は，しかし，さまざまな問いを投げかけている。米国はこれまで，ダウィソン前総裁の人権侵害，テロ活動への関与に強い懸念を持ち，PDC支持の大きな理由となった。諸外国はARENAの一部が体質的に持つ，「力の論理」に今後どのように対応するのか。クリスティアニ次期大統領は，PDC＝ドゥアルテ政権下で実施された，農地改革，外国貿易の国家管理，銀行国有化を撤廃，自由化すると発言している。経済活動の自由化は，もともと自由競争の基盤の欠如したこの国で，どのような結果をもたらすのか。富の偏在を加速することにはならないのだろうか。

最もさし迫った問題は何といってもFMLNとの内戦状態の終結である。ゲリラ側にも焦りが見られ，今年に入って和平案を提示している。だが，ドゥアルテ大統領が和平対話にことごとく失敗したことから，ARENA政権は強硬策に出るとの見方が強く，より深い泥沼に入り込む可能性も大きい。

筆者は，エルサルバドル内戦は，ラテンアメリカ諸国が一般に持つ，構造的，制度的問題が，最も凝縮された姿と見ている。対米関係，富の偏在，政府の腐敗，強大な軍部，司法制度の欠陥，人権侵害などなど。クリスティアニ次期大統領は5年間の治世下で，こうした問題にどのような解決策を提示するのか。今後の動きに注目したい。